

連載

挑む

〜プリント業界の挑戦者たち〜

挑戦企業 No.7 フジアート(株)

アフターコロナ下で仕事に戻ってくる一方、大判プリント業界を取り巻く環境は必ずしも好調とは言い切れない。資材価格の高騰、価格競争の激化、人材の確保など、続々と噴出する問題に経営者はいかなる舵取りを行うのか。

今回は、福岡・糟屋郡にて大型インクジェット出力を中心に、サイン・ディスプレイやアート制作など幅広いプリントビジネスを展開するフジアート(株)・狩野健社長に話を聞いた。



代表取締役
狩野 健氏

1974年、福岡県福岡市生まれ。大学卒業後、一般企業に4年間勤務。2005年に同社へ入社し、専務取締役としてさまざまな業務に従事。2011年より代表取締役を務めている。



①②③工場内は、何回もの増設により多数のエリアに別れている。それぞれ作業に応じた機械と加工スペースが用意され、効率的な運用を行なっている。

設備投資と挑戦でデジタルプリント市場を切り拓く

◆創業から現在に至るまでの経緯

シルクスクリーン業をルーツに、現在は大型インクジェットを活用した屋外広告やイベント装飾、店舗サインなどの製作・加工を手掛けています。なかでもターポリン幕の印刷は主力事業で、多様な素材・サイズに対応できる出力体制を整えています。

ラテックスプリンターをはじめとした環境負荷の少ない商材を多数取り揃えている点も当社の特徴です。脱塩ビ素材やファブリック、紙製パネルなど、環境に配慮したメディアの提案にも積極的に取り組んでいます。

◆ターニングポイントとなった出来事

現在の出力体制を構築する上で大きな転期となったのが、ラテックスプ

リンターの導入でした。もともと溶剤中心の設備構成でしたが、作業効率向上やメディア対応の幅を広げるため、2012年に「HP Latex 600」を運用開始。印刷後すぐに後工程に回せる速乾性に加え、屋外広告にも対応可能な高い耐候性を備えており、サイン用途として十分運用できると判断しました。

最新モデル「HP Latex FS50W」の導入もそうですが、新しい技術が登場したら、まずは自分たちで触れてみる。仕事も機械も「今まで通り」が安心で楽ですが、この市場を自ら切り拓いていくという挑戦の姿勢を常に意識しています。

その考えから設備投資にも積極的に、特定のメーカーに縛られることなく多様な出力機を取り入れるほか、DTFプリンターによる提案商材の増強を模索したりしています。

◆現状の課題と今後の展開について

近年注力しているのが、アート分野のビジネス。クリエイターやデザイン事務所向けのキャンバスプリントでは、印刷だけでなく木枠の製作や張り込みまで自社で対応し、作品づくりをトータルで支える体制を整えました。

さらに新たな試みとして、アルミ板に昇華転写を施す「アルミアート」を開始。アルミ素材の質感を生かしたアート作品を提案するもので、当社の企画部門を中心に展開しています。

2025年に新社屋を建設しました。スタッフが心地よく働ける環境を整えるため休憩室を設け、トイレの増設も実施。製造スペースも大幅に拡張されました。今後も積極的な設備投資を続けながら、新しい挑戦を重ねていきたいと考えています。



会社概要

- 設立: 1979年7月
- 所在地: 福岡県糟屋郡新宮町上府北 3-3-25
- 社員数: 40人(2026年3月現在)
- TEL: 092-963-2307
- FAX: 092-963-0641
- URL: <https://www.fuji-art.biz>

- 営業品目: 屋外広告・サインなどの業務全般(企画・デザイン・製作・施工) …etc

- 主な設備: IJP12台(溶剤×2台、UV×2台、Latex×6台、捺染顔料×1台、昇華転写×1台)、ラミネート加工機4台、カッティングマシン2台、マルチカッティングマシン2台、ウェルダ機4台、ハトメ機3台、工業用ミシン7台、シルク印刷機1台……etc



④ 3200mm幅のラテックス機を合計4台運用している。⑤ロール専用UVIJP「ANAPURNA H2500i LED」。⑥ロール・フラット両対応ラテックスIJP「HP Latex R1000 plus」。⑦1.6m幅エコソルベントIJP「JV330-160」。⑧捺染顔料IJP「SC-F2150」。⑨今年2月に行われたHP共催の同業社向けオープンファクトリーでは、福岡県内外から約20人の参加者が集まった。⑩高級感のある光沢が特徴のアルミアートプリント。